

# 第11回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

## 前回ワーキングでの指摘と対応等

---

### 目次

|                            |   |
|----------------------------|---|
| ■第10回ワーキンググループでの指摘と対応..... | 1 |
|----------------------------|---|

---

令和4年7月25日

## 第10回ワーキンググループ(R4. 3. 17)での指摘と対応 (1/2)

| 領域 | 委員からの主な意見  | 対 応   | 備 考 |
|----|--|---|-----|
| 山地 | <p><b>①裸地面積について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>裸地面積については、最近、大きな大雨や台風が来襲していないので大きな変化はないと思われる。</li> <li>大雨がなく、造林もしていることから、裸地が悪化していることはないと思われる。ただし、今後の人手不足が気になる。</li> <li>食害は造林地にも結構ある。食害については令和3年だけが悪かったというわけではなく、昔からずっと起こっている事象である。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>崩壊地の評価は、大内原ダム流入量で割っている関係で増減が生じるものの、近年の傾向としては大きく変わっていないと思われる。</li> </ul>                            |     |
| 山地 | <p><b>②流木流出量について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマス利用の推進が流木流出量の低減に寄与していると思われる。また、以前は伐採後に根玉に積む傾向にあったがバイオマス燃料への活用等により、最近ではそれをしなくなったことも流出量低減に寄与していると思われる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   |     |
| ダム | <p><b>③堆積状況について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「上椎葉ダム、岩屋戸ダム上流端の河床高(本川)は、至近3年間(平成30年度～令和2年度)と比較して大きな変化はみられない」とあるが、支流の不土野川、十根川では土砂の堆積がみられるため、支流の堆積状況も把握した方がよいと思われる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>支流の不土野川、十根川の堆砂状況については、今後注視していく。</li> </ul>   | —   |
| ダム | <p><b>④出水時の水質調査や底生動物調査について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出水時の水質調査や底生動物調査は、塚原ダムから河口区間で調査されているが、塚原ダムから上椎葉ダム貯水池区間においても、調査してほしい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   | —   |
| 河道 | <p><b>⑤河川景観の変化について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親水景観の対象となっている場所が耳川の本流でなく、支流を対象としている。美々津大橋下流は耳川の下流端に位置し、河口になるため、評価地点としては望ましくないと思われる。「耳川をいい川にする」という目標で行っていることなので、耳川本流を対象とすることが望ましいと考える。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>水景観ということで、人が寄り付きやすい場所として坪谷川の牧水公園等の支流を対象としている。親水景観の評価地点については、今後地元の方などのご意見を踏まえて、検討していきたい。</li> </ul> | —   |
| 河道 | <p><b>⑥感覚による調査について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「五感を使った水辺調査」による水質・底生動物の評価について、子供が今見る目と大人が昔見てきた川の状態は異なるため、大人の調査を実施してほしい。</li> <li>昔はスムーズに川に入れたが、今は石にコケが張って足元が滑り、川に入れない。川を見た感覚で評価するのではなく、実際に川に入って評価することが望ましい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   | —   |
| 河道 | <p><b>⑦堤防への影響について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川内の堆積土砂の浚渫について、県が実施して堆積土砂は少なくなったが、一方で、堤防が無い区域が心配である。浚渫によって河道の状況が変わるため、水位や流速等が変化することで、影響がでないかが心配である。</li> <li>写真観測などの対象箇所は、工作物がある周辺などを対象としているようであるが、堤防が無い居住地域(住居が隣接している地域)などを対象に写真観測や縦横断の確認を実施してほしい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な場所を改めてご相談させていただく。写真観測やモニタリング等の実施箇所の見直しについて検討させていただく。</li> </ul>                                | —   |

## 第10回ワーキンググループ(R4. 3. 17)での指摘と対応 (2/2)

| 領域 | 委員からの主な意見   | 対 応   | 備 考 |
|----|---|---|-----|
| 河道 | <p><u>⑧淵への影響について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通砂が始まって、今まで淵であった箇所が少なくなった。大きな石がある場所が土砂で埋まってしまい、ウナギ漁の漁場が減っている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、通砂により上流側で止めていた砂などは下流側に流出し、河道条件上、土砂が堆積しやすい箇所に土砂が流れ込んでいる事実はある。現在、ダム通砂の効果が発現している途中であり、今後、どのような場所でどのような材料が堆積しているかなどは、引き続き調査を実施し、情報共有を行いながら進めていきたいと考えている。</li> </ul> | —   |
| 河口 | <p><u>⑨漁獲量について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>底引き網の獲れる量が減少してきており、他の仕事と兼業している漁協者が増えているため、操業日数は減少傾向にある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   | —   |
| 河口 | <p><u>⑩河口の堆砂について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浚渫の話があったが、中島上流にある導流堤が損壊しており、中島に直接水が流れ込んで土砂が削られてきているため、出水があると河口付近に土砂が堆積しているのではないか。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>北部港湾事務所が導流堤に欠損があることを確認しており、今後対応を検討していく。</li> </ul>   | —   |
| 河口 | <p><u>⑪河口の堆砂について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダム通砂が始まって以降、大きな出水がない年には、河川の流が緩やかでありシルト分が河口部に堆積した影響で、伊勢海老の漁獲量が減ったとの声がある。</li> <li>通砂が始まってから水の色が白っぽくなったのではとの声もある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>シルト分はダム通砂を行わなくても通常の出水で流れてくるものであり、近年、顕在化してきている上流域からの濁水の長期化が影響している可能性がある。</li> </ul>   | —   |